

プレミアム珪藻土壁材の施工方法

きれいに仕上げるために、最初にお読みください。

- ① 塗ることのできる素材：** 古い塗り壁（セシ壁・ジュラク壁・砂壁）、しっくい、モルタル、コンクリート、合板、コンパネ、石こうボード、ビニール壁紙
※古い塗壁の強度がなくなっている場合には、「アクドメール」を塗って乾燥させてください。
かなり弱くなっている場合には、古壁を剥がしてから「アクドメール」を下塗りします。
※粗悪な木部や漏水によるシミがある場合にも、「アクドメール」を下塗りします。
※ビニール壁紙は剥がさず、膨れや剥がれの部分は、木工用接着剤で貼り付けておきます。
- 塗れない素材・場所：** 布壁紙、紙壁紙、ガラス、プラスチック、各種金属、化粧合板、タイル、外部、風呂場などの多量の水がかりがある場所

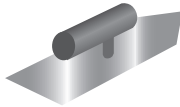
自宅の壁に塗れるかな?と思ったら

フリーダイヤル 0120-64-2421 にご連絡ください。(平日8:00~17:00)

② 使用する材料と道具



プレミアム珪藻土壁材
3kg入り
約3㎡(タタミ2枚分)



コテ



コテバケ



スポンジ



練り容器



ハケ



マスカー



マスキングテープ

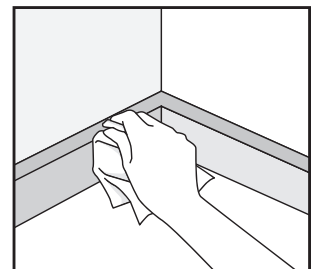
(道具は、すべて必要なわけではありません。仕上げの方法に合わせて、ご準備ください。)

- 他に、エプロン(汚れてもいい服)、カッター、脚立、ビニール袋、ウエス(タオル・雑巾)などを準備してください。
- プレミアム珪藻土壁材(3kgケース)で2.5~3.3㎡(タタミ約2枚分の面積)が塗れます。塗る面積に合わせてご準備ください。お得な3坪用(9kg)もあります。

③ 養生をはじめましょう

塗ってはいけないところに材料がつかないように、マスカーやマスキングテープを使用して保護をします。仕上がりを左右する大切な作業です。早く塗りたい気持ちをグッと押さえて、ていねいに保護しましょう。(塗ってはいけないところを保護することを「養生」といいます。)

まず、養生する(テープを貼り付ける)場所のホコリなどを雑巾などで拭き取ります。ホコリなどがあるとテープが付きません。



拭きとったところが乾いてから 養生作業に入りましょう。



端々までていねいに!

トイレ・ドアは使用可能なように!

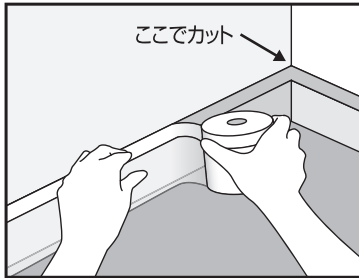
細かなところはテープを使って!

- プレミアム珪藻土壁材は厚みのある壁材です。マスカーやマスキングテープは、壁から2~1.5mm離して貼り付けるのがコツです。

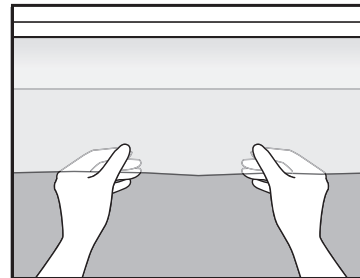
④ マスカーを使った養生

マスカーはテープとビニールシートが一体になっていて、**ドアや床面などの広い部分**の養生に便利です。

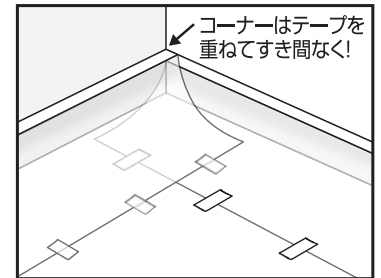
養生部分にテープを貼り、端のところでテープとシートを一緒にカットします。



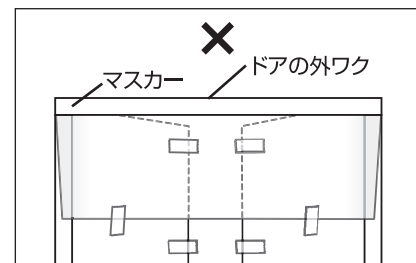
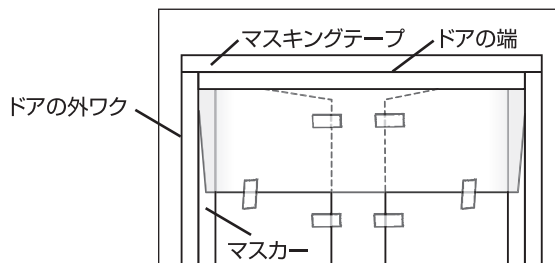
折りたたんであるビニールシート部分を伸ばし、塗らないところを隠すように広げます。



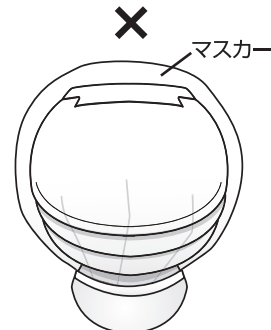
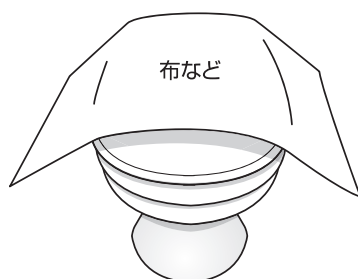
ビニールシートの端はマスキングテープで、ところどころ留めておきます。



ドアの養生をする場合は、マスカーとマスキングテープを使い分けて、**ドアが開くように**しておく必要があります。(ドアの外ワクとドアの可動部分とは別々に養生します。)



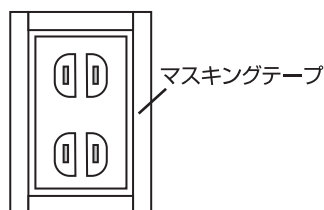
トイレの**便座は使用できる状態にしておく**必要があります。マスカーなどで養生しないで、不要な布などをかぶせておくとい良いでしょう。



チェック! ドアは開けることができますか? 便座は使用できますか? ご自宅にトイレが2箇所以上あれば良いのですが、1箇所の場合は、大切なチェックポイントです。

⑤ マスキングテープを使用した養生

コンセントやパイプなど、比較的細かな部分は、マスキングテープを使って養生します。



チェック! 養生が終わったら、テープの剥がれがないか、やり残しはないか、刷毛やコテで壁材を塗るイメージをしながら確認しましょう。

⑥ 下地処理(必要に応じて行います)

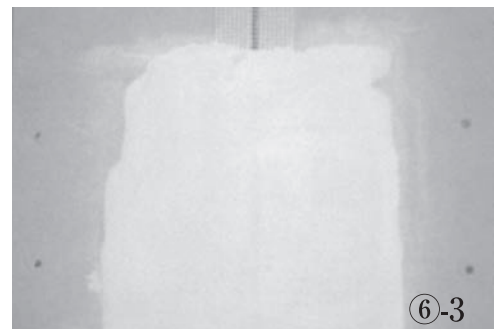
■塗り壁下地の場合

- ① 手でこすっても落ちない強い下地の場合
珪藻土壁材を直接塗ってください。
- ② 少しポロポロ落ちる弱い下地の場合
乾いたタオルなどで、表面の落ちる部分を軽くこすって落とした後、掃除機等で表面の粉分を吸い取ってきれいにしておきます。その後、水性下地強化材(アクトメール等)を塗って、弱った下地を固めます。(⑥-1) アクトメールは、原液を水で2倍に薄めたものを中毛ローラーで塗って、約1日程度十分に乾燥させます。(⑥-2)
- ③ 少しこすっただけでポロポロ落ちる極端に弱い下地の場合
霧吹き、濡れタオル等で古壁に水を浸み込ませ、柔らかくしてから、ゴムベラ等で完全に取り除いてください。



■石こうボード、合板などの下地の場合

ボードのジョイント(継ぎ目)部分にメッシュテープ(ファイバーテープ)を貼り、その上からパテ処理をしておきます。同時に釘、ビス山等の凹凸もパテ処理して、パテが乾燥したらサンドペーパーで平滑にしておきます。(⑥-3) 硬めに練った珪藻土壁材を使用することもできます。化粧合板(プリント合板)の場合は、表面をサンドペーパーで荒らして、粉分を拭き取ってから、珪藻土壁材を塗ってください。また、錆の出る恐れのある釘、ビス等を使用している場合は、頭の部分に、錆止め塗料を塗っておきます。



■凹凸のあるビニールクロス及び古壁下地の場合

きれいに仕上げる為には、使用する珪藻土壁材を少しだけ固めに練って、あらかじめ、コテ、ヘラ等で下地の凹みを埋める程度に薄くしごき塗りし、壁面全体を平滑にしてください。(コテ、ヘラを少し立てぎみにして、凹みを埋めてゆくと薄くて簡単に埋めることができます。)、もう一度、仕上塗りをします。(⑥-4)

※カビが発生している場合は、アルコールで殺菌してください。
※漏水によるシミがある場合は、必ずアクトメールを塗ってください。



⑦ 珪藻土壁材を練る

容器(たらい、バケツ等)に基準水量より、若干少なめの水を入れ、珪藻土壁材を加えて練り混ぜます。少しずつ水を加え、マヨネーズより少し固め、スポンジ、コテ等ですくった時に、ポタポタ落ちない程度の固さに調節します。練り始めは、ダマがつぶれ難いので、珪藻土壁材を塗る数時間前に軽く練り、そのまま密封して放置しておき、練る直前で適量の水を入れ、ダマをつぶしながら練ると簡単に練れます。壁塗りをする前日に練っておいても、ラップやビニール袋をかけるなどして乾燥しないようにしておけば、容器の中で壁材が固まることはありません。

※ 基準水量は、珪藻土壁材1袋(3kg)につき、2.4リットルです。



※一部屋又は一壁面を塗るのに必要な材料は、必ず一度に練り合わせてください。壁面途中で材料不足を起こさせないために、新たな壁面に取りかかる前に材料の量を確認してください。もし、途中で材料が足りなくなりそうな時は、使用している材料に新たな物を混合して使用してください。

⑧ 仕上げ例



スポンジの凹凸を使って仕上げた例



コテで仕上げた例



コテバケで仕上げた例



仕上げヘラ「スムーディ」で平滑に仕上げた例

⑨ 乾燥

完全乾燥までに、約1～2日(20℃)かかります。

⑩ 養生(マスキングテープ)を剥がす

■ マスキングテープを剥がすタイミングは、2通りあります。

④ 壁材が、乾かないうちに剥がします。この場合は、テープで塗った面をこすらないように気をつけてください。

⑤ 壁材が完全に乾いた後、カッターでテープと塗った面との境界に切れ目を入れながら、外側に向けてテープを引っ張りながら剥がすとスムーズに剥がせます。



⑪ 完成です

古くなって汚れが染みついたせいい壁も、明るくて素敵な壁に大変身します。お部屋も明るくなり、居心地も最適です。

⑫ 施工後のメンテナンス

時の経過で付着する日常的な汚れ、手垢等は、強く絞った濡れタオル等でかるく拭いてください。

ご不明の点は、下記までお問合せください。



フジワラ化学株式会社 愛媛県西条市大新田94番地

フリーダイヤル 0120-64-2421 (平日8:00～17:00)

e-mail:homecare@fujiwara-chemical.co.jp